

Contents

1 | 居酒屋チェーン A 社

2 | サッシ・建具 製造販売業 B 社

3 | バイク部品小売・リサイクルショップチェーン C 社

4 | 外資系 婦人バック・靴 製造・小売業 D 社

5 | 国内大手損保子会社 E 社

6 | 医療機器商社 年商 200 億 F 社

7 | 調剤薬局チェーン・宝飾店製造販売 etc G 社

1 居酒屋チェーン A 社

全国のフランチャイズ各店へ発展会計を導入。システムコストを抑え、各店の業績把握とフォローを実現。本部・顧問会計事務所・個店でデータの共有。申告は、会計事務所が一括受託。

1 導入前課題

暖簾分けで、自社社員からの独立のみ加盟を認める。フランチャイズ本部として、加盟店の経営指導を行う為に会計情報の早期把握は欠かせないが、全国をまたがるシステムを加盟店のために構築するのは非常に高い初期投資・ランニングが掛る。

2 提案ポイント

- 初期投資ゼロ、低ランニングコスト、従量制課金、拡張性も対応可能
- 全国にまたがるフランチャイズのネットワーク会計システムを構築できる。
- 税務・記帳指導は、顧問税理士事務所からサポート

3 導入後効果

- コスト、時間を掛けずに、全国のネットワークを構築。

2 サッシ・建具 製造販売業 B 社

1 I社 => 発展会計

オフコン系会計システムからの移行により、5年 500 万のコストを、160 万円へコストダウン。営業社員全てに、営業経費精算システムとしても利用。Excel の申請を廃止し、発展会計へ直接未払い営業経費として入力。経理部門は、各営業の未清算残高を確認し、月末一括精算。本社経理の合理化と各営業の精算処理を直結。営業社員約 60 名で利用。

1 導入前課題

- 既存システムの高コスト
- 本社経理業務の負担大

2 提案ポイント

- 会計システムのリース満了に伴い、コスト削減
- 営業マンの経費精算を、会計日記帳入力で行い、本社経理の合理化・省力化
- 本社での全社員研修までの導入研修会フォロー
- 少ないライセンスで、多くの担当者利用が可能。
- 10 ライセンスで、60 名が分散処理

3 導入後効果

- 営業の方から、会計日記帳入力が好評
- 経費削減に成功
- 月次決算の早期化

3 バイク部品小売・リサイクルショップチェーン C 社

1 J社 => 発展会計

関東圏で、小売店舗を約 15 店舗展開。本社の一括処理から、各店舗の出納管理を分散入力へ。本社の月次損益の把握が、格段にスピードアップ。グループ会社も合わせ、20 ライセンスを利用。

1 導入前課題

分散入力を検討するも、J社では数千万円の見積書。ネットワーク導入断念。本社一括処理で経理負担大、月次決算の遅れ。

2 提案ポイント

- 初期投資ゼロ、低ランニングコスト、従量制課金
- 各店舗の店長に、日々の収支を入力。部門別管理の徹底

3 導入後効果

- 本社経理の大幅な負担軽減。
- 個展の業績管理に成功
- 発展会計のデータを、Excel で独自に加工しグラフ化

4 外資系 婦人バック・靴 製造・小売業 D 社

1 B 社 => 発展会計

本社 5 名にて、分散入力システムとして利用。導入の経緯は、事務所移転に際しサーバーを破損、データが消える事故が起きた。データのセキュリティ・バックアップ管理からクラウド型を採用。国内、50 店舗を部門別に管理し管理会計を徹底。外資系のため、試算表を全て英語表記し入力。香港のアジア本部と財務データを共有。

1 導入前課題

- サーバーの破損により、タイムリーにネットワーク型の会計システム導入が必要。他のベンダーは、納期に 1 ヶ月くらい掛る。
- コストは掛けたくない
- 英文の科目体系対応が必要

2 提案ポイント

- 最短 1 日で納品可能
- 初期投資ゼロ、契約期間 1 年
- 充実の部門機能

3 導入後効果

- 科目を全て英文に直し、香港のアジア統括とデータ共有
- データのバックアップ、セキュリティ効果（ストレージ機能）

5 国内大手損保子会社 E 社

1 M社 => 発展会計

事業規模拡大により、分散入力を希望。会計事務所から紹介のソフトでネットワークを構築すると高コストかつ高機能過ぎて、オーバースペック。コスト・機能面の両面から採用。

1 導入前課題

M社を利用しているが、2人で入力するために分散入力が必要に。M社では高コストかつ高スペックすぎる。

2 提案ポイント

- 低コストかつクラウドがシステムの主流

3 導入後効果

- 早期に程良いスペックの仕組みを導入できた（機能の自由選択）。

6 医療機器商社 年商 200 億 F 社

1 M社 => 発展会計

企業内専用回線のクライアントサーバー型からクラウド方式へ会計システム変更。

本社 3 名と支店 6 店舗の分散入力システムとして利用。保守料の負担軽減と支店間の本支店会計システムを低コストで構築。

1 導入前課題

- M社の古いネットワークシステムを購入したが、保守契約をせず古いバージョンのまま
で、会計事務所でデータ共有が出来ない。
- 会計事務所では、部門別の資料提供のために資料を預かり再度仕訳入力を毎月行っていた。

2 提案ポイント

- コストを掛けずに、本支店会計システムを構築可能
- バージョンの管理不要
- 会計事務所のサポートとデータ共有

3 導入後効果

- 初期費用ゼロで、本支店会計システム導入
- 会計事務所の入力業務省力化

7

調剤薬局チェーン・宝飾店製造販売 etc G社

1 調剤薬局チェーン:7店舗

社長夫人が一人で経理処理。各店舗で収支入力を行い、本社経理の合理化に成功。
副産物として、各店舗の責任者の当事者意識が向上。積極的に会計ソフトの利用を組み合わせる。

2 宝飾店製造販売:8店舗

本社経理1人で、経理処理。導入の主な目的は、各店長への業績管理意識付け。
結果的には、本社経理の合理化にもつながるが、経営管理ツールとして利用を希望。